

群馬県生態系等被害防止外来種リスト 掲載種の付加情報

通し番号	分類群番号	分類内番号	区分	科名	和名(別名、流通名)	学名	特定外来生物	定着段階	定着段階に関するコメント	特に問題となる地域や環境	生態系への影響	経済・産業被害	人体への被害	対策の優先度	対策方法・対策実施時の注意点など (分類により取扱いが異なるため、具体的な記載が可能な種のみ記載)
1	1	1	対策優先種	哺乳類	アライグマ	<i>Procyon lotor</i>	○	定着	全県下		◎	◎	◎	○	全県下での生息が確認されている。誘引物除去、住居侵入防止、空き家対策を行うことが重要。人獣共通感染症等に注意が必要。
2	1	2	対策優先種	哺乳類	ハウビシン	<i>Paguma larvata</i>		定着	全県下		◎	◎	◎	○	全県下での生息が確認されている。誘引物除去、住居侵入防止、空き家対策を行うことが重要。人獣共通感染症等に注意が必要。
3	1	3	対策優先種	哺乳類	フタ・イ・フタ(フタ・イ・フタの野生化したもの)	<i>Sus scrofa</i>		定着	全県下	とくに東毛地域で多い傾向	◎	◎	◎	○	DNA分析の結果、県東部での検出が比較的多い傾向が報告されている。県内のイノシシ等の増加は生息可能環境と餌資源が主な要因である。飼育個体を遺棄しないことを徹底し、誘引環境の除去、誘引物の除去、防護柵の設置等、防除対策を行うことが重要。
4	1	4	対策優先種	哺乳類	シマリス(チョウセンシマリス)	<i>Tamias sibiricus</i>		定着	一部地域に限定		◎	◎	△	○	飼育動物の遺棄をしないよう普及対策を行うことが重要。
5	1	5		哺乳類	ノネコ(イエネコの野生化したもの)	<i>Felis silvestris catus</i>		定着			△	△	△		
6	1	6		哺乳類	クマネズミ	<i>Rattus rattus</i>		定着	全県下		◎	◎	◎		
7	1	7		哺乳類	ハツカネズミ	<i>Mus musculus</i>		定着	全県下		◎	◎	◎		
8	1	8		哺乳類	ドブネズミ	<i>Rattus norvegicus</i>		定着	全県下		◎	◎	◎		
9	1	9	対策優先種	哺乳類	タイワンザル	<i>Macaca cyclopis</i>	○	侵入	少数個体	西毛地域	◎	◎	◎	○	ニホンザルとの交雑が懸念される。飼育個体の遺棄をしないよう普及対策を行うことが重要。個体が発見された場合にはニホンザルとの交雑を防止するため早期の捕獲対策が必要。
10	1	10	対策優先種	哺乳類	アカゲザル	<i>Macaca mulatta</i>	○	侵入	少数個体	西毛地域	◎	◎	◎	○	ニホンザルとの交雑が懸念される。飼育個体の遺棄をしないよう普及対策を行うことが重要。個体が発見された場合にはニホンザルとの交雑を防止するため早期の捕獲対策が必要。
11	1	11	対策優先種	哺乳類	クリハラリス(タイワンリス)	<i>Callosiurus erythraecus</i>	○	侵入			◎	◎	◎	○	飼育個体の遺棄をしないよう普及対策を行うことが重要。個体が発見された場合には早期の捕獲対策が必要。

12	1	12	対策優先種	哺乳類	キタリス	<i>Sciurus vulgaris</i>	○	侵入		東毛	◎	◎	△	○	飼育個体の遺棄をしないよう普及対策を行うことが重要。個体が発見された場合には早期の捕獲対策が必要。
13	1	13	対策優先種	哺乳類	アメリカミンク(ミンク)	<i>Neovison vison</i>	○	侵入		西毛地域	◎	◎	△	○	飼育個体の遺棄をしないよう普及対策を行うことが重要。個体が発見された場合には早期の捕獲対策が必要。
14	1	14		哺乳類	ヌートリア	<i>Myocastor coypus</i>	○	侵入			◎	◎	○		
15	1	15		哺乳類	ノイヌ(イヌの野生化したもの)	<i>Canis lupus</i>		侵入			◎	◎	◎		
38	2	1		鳥類	ガビチョウ	<i>Garrulax canorus</i>	○	定着	個体数も多く分布も広い。県内でもさらに分布を広げ、個体数も増加傾向にある。		○	△	△		数を好む性質と、すでに県内に広く分布することから、対策は困難。
39	2	2		鳥類	カオジロガビチョウ	<i>Garrulax sannio</i>	○	定着	ガビチョウと同じ。ただし本種の方が分布域は狭い。		○	△	△		数を好む性質と、すでに県内に広く分布することから、対策は困難。
40	2	3		鳥類	ソウシチョウ	<i>Leiothrix lutea</i>	○	定着	繁殖期は高標高地に生息するため県内の分布の実態を把握できておらず、環境への影響を評価できない。		○	△	△		繁殖期には標高が高い地域に生息し、ササ藪などを好むため、対策は困難。
41	2	4		鳥類	ワカケホンセイインコ	<i>Psittacula krameri manillensis</i>		定着	個体数が多くはなく、分布も限定的。		△	△	△		繁殖地が局地的なため、捕獲による個体数減少を図れる可能性がある。ただし、移動能力が高いため、全個体を一斉捕獲しないと繁殖地の分散をまねく可能性があり、対策は難しい。
42	2	5		鳥類	コジュケイ	<i>Bambusicola thoracicus</i>		定着	古くからの人為的移入種で、広域に分布する。		△	△	△		数を好む性質と、すでに県内に広く分布することから、対策は困難。
43	2	6		鳥類	カワラバト(ドバト)	<i>Columba livia</i>		定着	古くからの人為的移入種で、市街地を中心に広域に分布する。		△	△	△		すでに県内に広く分布し、個体数も非常に多いことから、対策は困難。
44	2	7		鳥類	カオグロガビチョウ	<i>Garrulax perspicillatus</i>	○	侵入	過去には繁殖記録があったが、その後は単発の観察記録があるのみ。		△	△	△		県内への侵入個体が少ないうちに繁殖場所を特定し、一斉捕獲できれば対応は可能かもしれない。
45	2	8		鳥類	コリンウズラ	<i>Colinus virginianus</i>		侵入	利根川の伊勢崎周辺で確認されていたが、現在は生息していないかもしれない。		△	△	△		
46	2	9		鳥類	コブハクチョウ	<i>Oxygnus olor</i>		侵入	多々良沼などで繁殖していたが、近年はガンカモ調査でも記録されず、現在は県内には生息していないと思われる。		△	△	△		

47	3	1	爬虫類	アカミミガメ	<i>Trachemys scripta</i>	条件付き	定着	東毛平野部では個体数が多い		○	△	△		既に蔓延に近い地域もある。駆除にはかなりのコストが見込まれるので、広範囲で絶滅させることは困難である。生態系への影響(在来種への圧迫等)が懸念される地域等での優先的な駆除が合理的である。閉鎖個体群(ため池等)で他所への移動が困難な場所等)かつ小規模生息地では、トラップによる駆除効果が見込まれる。現状では、分布域の拡大を阻止する目的で、人為的移動等を抑制するような啓蒙活動が望まれる。
48	3	2	爬虫類	クサガメ	<i>Mauremys reevesii</i>		定着	アカミミガメほどではないが、しばしば発見される		△	△	△		イシガメとの雑種形成が懸念される。閉鎖個体群かつ小規模生息地ではトラップ等で駆除効果ある。但し、何百年前に侵入した種を駆除すべきは論議があるが、アカミミガメ同様に人為的移動を抑制するような啓蒙活動が望まれる。
49	3	3	爬虫類	ワニガメ属	<i>Macrochelys</i> spp.		侵入			△	△	△		発見が散発的なので、その都度の駆除に対応している。但し、侵入から定着に至り、個体数が増大すれば、駆除が困難になるばかりか、生態系への影響、経済・産業被害、人体への被害等が深刻になる可能性が高い。見つけ次第の駆除が必要であり、それには注意喚起の啓蒙活動が必要である。特定動物に指定されているので、直接的に人体への被害(咬傷)も予想されるので、取り扱いには十分に注意が必要である。
50	3	4	爬虫類	カミツキガメ	<i>Chelydra serpentina</i>	○	侵入			△	△	△		発見が散発的なので、その都度の駆除に対応している。但し、侵入から定着に至り、個体数が増大すれば、駆除が困難になるばかりか、生態系への影響、経済・産業被害、人体への被害等が深刻になる可能性が高い。見つけ次第の駆除が必要であり、それには注意喚起の啓蒙活動が必要である。特定動物と同様に、直接的に人体への被害(咬傷)も予想されるので、取り扱いには十分に注意が必要である。
52	4	1	両生類	ウシガエル	<i>Rana catesbeiana</i> (<i>Lithobates catesbeianus</i>)	○	定着		県内各地に定着しているが調査記録が無く詳細は不明。食用等の理由で人為的に導入されたもので、外来魚と同様に放流しなければ拡散しないと思われる。	◎	◎	○		侵入してしまうと駆除が難しいので、放流しない。
53	4	2	両生類	関東以北及び島に侵入したスマガエル	<i>Fejervarya kawamurai</i>		定着		県南東部では定着し、北上していると思われるが詳細は不明。拡散は人の活動(物流)によると思われるが、現時点では人や産業への影響は把握していない。	△	△	△		物流品への混入を防ぐ。
54	5	1	対策優先種	魚類	チャネルキャットフィッシュ(アメリカナマズ)	○	定着			○	○	△	○	
55	5	2	対策優先種	魚類	ブルーギル	○	定着			○	○	△	○	
56	5	3	対策優先種	魚類	コクチバス	○	定着			○	○	△	○	
57	5	4	対策優先種	魚類	オオクチバス	○	定着			○	○	△	○	
58	5	5	対策優先種	魚類	タイリクバラタナゴ		定着			○	○	△	○	
59	5	6	対策優先種	魚類	コウライオヤニラミ		定着	藤岡市鮎川で成魚、未成魚が確認されており、繁殖が推定されている。		○	○	△	○	生息が確認され間もないことから、生息確認地で重点的かつ早期に捕殺作業を実施し、生息密度の低下及び根絶を図る。
60	5	7	魚類	コウライギギ	<i>Pseudobagrus fulvidraco</i>	○	定着			○	○	△		

61	5	8	魚類	ニジマス	<i>Oncorhynchus mykiss</i>		定着			○	○	△		
62	5	9	魚類	ブラウントラウト	<i>Salmo trutta</i>		定着			○	○	△		
63	5	10	魚類	ハス	<i>Opsarichthys uncirostris</i>		定着			△	△	△		
64	5	11	魚類	スゴモロコ	<i>Squalidus biwae</i>		定着			△	△	△		
65	5	12	魚類	カワムツ	<i>Zacco temminckii</i>		定着			△	△	△		
66	5	13	魚類	ムギソク	<i>Pungtungia herzi</i>		定着			△	△	△		
67	5	14	魚類	ツチフキ	<i>Abbottina rivularis</i>		定着			△	△	△		
68	5	15	魚類	タモロコ	<i>Gnathopogon elongatus elongatus</i>		定着			△	△	△		
69	5	16	魚類	アカザ	<i>Liobagrus reini</i>		定着			△	△	△		
70	5	17	魚類	ハクレン	<i>Hypophthalmichthys molitrix</i>		侵入		産卵環境はない。	△	△	△		
71	5	18	魚類	コクレン	<i>Aristichthys nobilis</i>		侵入		産卵環境はない。	△	△	△		
72	5	19	魚類	ソウギョ	<i>Ctenopharyngodon idellus</i>		侵入		産卵環境はない。	△	△	△		
73	5	20	魚類	アオウオ	<i>Mylopharyngodon piceus</i>		侵入		産卵環境はない。	△	△	△		

74	5	21		魚類	ヨコシマドンコ	<i>Micropercops swinhonis</i>		侵入			△	△	△		
75	6	1	対策優先種	昆虫類	クビアカツヤカミキリ(クロジコウカミキリ)	<i>Aromia bungii</i>	○	定着	県南部で確認され、東毛地域を中心に定着・増加している。		◎	◎	△	○	被害の確認された樹木に対し、伐倒、薬剤注入を実施するとともに、成虫が発見された場合はその場で駆除を行う。
76	6	2	対策優先種	昆虫類	ツヤハダゴマダラカミキリ	<i>Anoplophora glabripennis</i>	○	定着	板倉町で成虫、産卵痕、脱出孔が複数確認された		◎	◎	△	○	被害の確認された樹木に対し、伐倒、薬剤注入を実施するとともに、成虫が発見された場合はその場で駆除を行う。
77	6	3		昆虫類	ホソオチョウ(ホソオアゲハ)	<i>Sericinus montela</i>		定着	食草であるウマノズクサの生育地域が限定的であり、現状での発生・定着場所は限定的である。		○	○	△		
78	6	4		昆虫類	アカボシゴマダラ大粒亜種(名義タイプ亜種)	<i>Hestina assimilis assimilis</i>	○	定着	発生・確認場所が増加しており、県内に拡がっている。		○	○	△		
79	6	5		昆虫類	クスベニカスミカメ	<i>Marsoniella cinnamomi</i>		定着	東毛地域で確認された。今後、拡大する可能性が高い。		○	○	△		
80	6	6		昆虫類	ブラタナスグンバイ	<i>Corythucha ciliata</i>		定着	県南部の街路樹等でみられる。		○	○	△		
81	6	7		昆虫類	アワダチソウグンバイ	<i>Corythucha marmorata</i>		定着	県内の広い地域でみられる。		○	○	△		
82	6	8		昆虫類	イネミズゾウムシ	<i>Lissorhoptus oryzophilus</i>		定着	県内の広い地域でみられる。		○	○	△		
83	6	9		昆虫類	アルファルファタコゾウムシ	<i>Hypera postica</i>		定着			○	○	△		
84	6	10		昆虫類	ムネアカハラビロカミキリ	<i>Hierodula chinensis</i>		定着	西毛地域で定着が確認されている。本種が増加すると在来のハラビロカミキリの個体数が減少している事例が報告されている。		○	△	△		
85	6	11		昆虫類	外国産クワガタムシ	Lucanidae Gen spp.		侵入	ペットショップやホームセンターなどで販売されており、だれでも簡単に入手できる。飼育放棄による投棄や逃出によって野外で見つかっている事例があり、生態系への影響が危惧される。		◎	○	△		野外へ逃がさない。最後まで責任をもって飼育する。野外に定着した場合の生態系への影響などについて、購入者や飼育者への周知や啓発を進めるとともに、販売店で購入者への注意喚起を徹底する。
86	6	12		昆虫類	外国産カブトムシ	Dynastinae Gen. spp.		侵入	上記と同様		◎	○	△		野外へ逃がさない。最後まで責任をもって飼育する。野外に定着した場合の生態系への影響などについて、購入者や飼育者への周知や啓発を進めるとともに、販売店で購入者への注意喚起を徹底する。

87	6	13	昆虫類	アカカミアリ	<i>Solenopsis geminata</i>	○	侵入	県内では1例の確認事例がある。物資等の移動に伴い侵入する危険性がある。		◎	◎	◎		
88	6	14	昆虫類	セイウオオマルハナバチ	<i>Bombus terrestris</i>	○	侵入	赤城山南面地域において野外に逸出した個体と思われる複数の確認事例がある。コロニーの定着は確認されていない。		◎	○	○		施設栽培トマト農家での受粉用として販売されていることから、使用する農家に対して施設から逃げ出さないなどの指導の徹底が必要。
89	6	15	昆虫類	オオクワガタ(国内外来種)	<i>Dorcus hopei</i>		侵入	ペットショップやホームセンターなどで販売されており、だれでも簡単に入手できる。飼育放棄による放棄や逸出によって野外で見つかっている事例がある。県内在来個体の現状が不明であり、他地域の個体群による遺伝子汚染が危惧される。		◎	△	△		
96	7	1	陸生節足動物	セアカゴケグモ	<i>Latrodectus hasseltii</i>	○	定着	成体の個体と卵囊が一緒の確認事例が2件あり、定着の様相を示す。	県南部からの発見報告が多い。	△	○	◎		発見したら、その場所で駆除することなどの広報活動を年2回(春と秋)行う。
99	8	1	対策優先種	その他の無脊椎動物	マツノザイセンチュウ		定着	県南部ではまん延しており、マツ枯れの被害が甚大である近年、北部でもマツ枯れ被害がみられる。		◎	◎	△	○	
100	8	2	その他の無脊椎動物	ウチダザリガニ(タンカイザリガニを食む)	<i>Pacifastacus leniusculus</i>	○	定着		片品村「菅沼」で確認されており、拡散の恐れがある。	△	△	△		
101	8	3	その他の無脊椎動物	アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i>	条件付き	定着			○	○	△		
102	8	4	その他の無脊椎動物	スクミリンゴガイ	<i>Pomacea canaliculata</i>		定着			◎	○	○		水田に故意にはなさない。
103	8	5	その他の無脊椎動物	カワリヌマエビ属	<i>Neocaridina sp.</i>		定着			○	○	△		
104	8	6	その他の無脊椎動物	マダラコウラナメクジ	<i>Limax maximus</i>		侵入	県央部で確認事例がある。		○	○	△		